

ゴードン会議（2005年）に参加して

工藤 崇

早稲田大学大学院 電気・情報生命専攻 薬理学研究室

2005年7月31日から8月5日まで、ゴードン会議がアメリカ合衆国、ロードアイランド州、ニューポートのSalve Regina大学で開催された。ニューポートはボストンからバスで約1時間南へ下った、海に囲まれた地域で、リゾート地である。また、テニスのU.S.オープン発祥の地でもある。さらにリゾート地ということもあって、豪邸がたくさんある、大変美しい地域である。

この会議は、1931年にアメリカのゴードン博士の呼びかけによってボルチモアではじまった、歴史的に古く世界的にも権威のある会議で、2年に1回開催されている。そしてこの会議は、研究者間の交流と自由な議論の場を提供することを目的としている。

会議の初日は19時30分から口頭発表が始まった。私は前日にボストンで一泊していたのであまり疲れていなかったのだが、当日アメリカに来た人にとってはかなりつらかっただろう。2日目からは9時から始まり、休憩をはさんで21時30分過ぎまで会議が続く。そして、会議が終了した後は、毎日ほぼ全員がアルコールを飲みながら研究者間の交流をはかることになる。参加者は原則的に会場である大学に泊まることになっているので、帰る手段や時間を気にする必要は無い。当日にアメリカに来た日本人研究者は、時差ボケの上にアルコールが入るので、苦しそうだった。ほぼ1週間、朝から晩まで内容の濃い会議に参加することができたことに大変感謝している。

会議の2日目から5日目にかけては16時から18時までの間、ポスター発表が70件程度行われた。この時間はビールやワインを飲みながら、ポスターについて議論する。私は「サミュエル・アダムス」という地ビールを毎日飲んでいて、とてもおいしかった。私は「コール酸含有食のマウス肝臓に対する影響」というタイトルで、ポスター発表を行ってきた。ポスターを貼る場所は特に指定されておらず、自分の好きなところに貼ることができた。ポスターについて、多くの研究者から様々な質問を受けたり、有意

義な意見交換をしたりすることができた。今回得られた貴重な意見をもとに、さらに研究を進展させていくつもりである。できればゴードン会議の内容をここで紹介したいのだが、自由な意見交換を妨げないために会議の記録は禁止されている。よってそれ以外のことについて書く。

アメリカではいろいろ戸惑うことが多かった。私は、会場のシングルの部屋を予約していたのだが、会場で偶然会った知り合いの日本人研究者に部屋番号を聞いてみると、なぜか私と部屋番号が一緒だった。会場の宿泊施設が足りなくなり、部屋が変更になったということだった。何人かの研究者は会場近くのホテルに泊まったそうである。私の泊まったところは大学の寮だったのだが、寮の入り口のカードキーのみ渡されて、部屋の鍵は無かったので少し不安だった。トイレは2つの部屋に1つしかなく、両方の部屋につながっている。だから、隣の部屋から外国の研究者が「トイレを貸してくれ」といって、出てきたときにはびっくりした。一般的には、性別、年齢、人種などを考慮して部屋を割り当てているようである。

12時30分から4時までは自由時間なので、ニューポートの観光を行った。バスで中心地まで行ったのだが、バスの小銭を持っていなかったのも、バスの運転手に「何で小銭を用意しておかないんだ！」と怒られてしまった。アメリカではおつりが出ないように料金を払わなければいけないらしい。まずテニスのU.S.オープン発祥の地にあるテニスの殿堂博物館にいった。確かにテニスコートはあったのだが、特に変わったテニスコートではなかった。博物館の中に入るには8ドル必要だったので、入るのをやめておいた。その後、港に行ったのだが、ヨットがたくさん泊めてあり、とてもきれいな光景だった。また、この地域はロブスターが名物なので、至る所にロブスターの看板があったのが印象的だった。帰りは歩いて帰ったのだが、きれいな豪邸がとても多かった。私は普段とても狭い家に住んでいるので、

とてもうらやましかった。ニューポートは避暑地なので、普段はもっと大きな家に住んでいるのだろう。また、通りを走っている車も大型車ばかりだった。

アメリカの食事についても書いておきたい。一般的にアメリカの食事は日本人の口に合わないといわれているが、確かにその通りだと思った。ゴードン会議開催中は会場の大学のカフェテリアで朝食、昼食、夕食をバイキング形式で食べるのだが、途中から飽きてしまった。フルーツなどの健康的なものがある一方、大きな肉など太りそうなものもたくさんあった。途中、昼休みに町へ出て中華料理を食べたのだが、メニューが英語と中国語で書かれていたので、よくわからなかった。何とか注文したのだが、現物を見るまで安心できなかった。出てきた中華料理は確かに中華料理なのだが、日本の味とはだいぶ異なっていた。この会議の最後の夕食にはロブスターが出てきた。私はカニでさえあまり食べたことが無かったのでとてもうれしかった。ロブスターを

食べる時にはナプキンと殻を砕く道具のようなものが出てきたのだが、使い方がよくわからなかった。適当に殻を砕いて食べていたのだが、アメリカに留学経験のある日本人研究者によると一応食べ方があるらしい。最後の夕食に大変おいしいものを食べる事ができて、とてもよかった。Salve Regina大学は海に囲まれた大学である。よって、海に潜ってロブスターを捕まえようと思っていたのだが、ロブスターは比較的深いところに生息しているので、実現することができなかった。

この会議を通じて、時間生物学の最先端を学ぶことができた。また、外国の研究者と交流をはかることもできた。さらに最新のデータ発表がたくさんあり、とても刺激を受けた。次にゴードン会議が行われるときにもぜひ参加したい。



会議の参加者



ロブスターと筆者



ポスター発表会場